

## グラスルーツからの 日米関係強化 (GEN-J) 事業 報告書



## 目次

---

ご挨拶	3
グラスルーツからの日米関係強化（GEN-J）事業概要	4
プログラム紹介（米国）	6
プログラム紹介（日本）	10
GEN-J事業 派遣・招へい実績一覧	14

---

## ご挨拶

国際交流基金は、2018年から2020年の2年間にわたり、草の根レベルで日米の相互理解を深め、地域に根ざした交流活動を推進するため、双方向の交流事業として、「GEN-J」(英名:Grassroots Exchange Network - Japan 和名:グラスルーツからの日米関係強化)を実施しました。

本プロジェクトは、これまで日本文化の紹介や日本語学習が比較的手薄だった米国中西部・南部との関係強化と、主にこれらの地域に進出している日本企業との関わりを意識して設計されました。日本から派遣された計14名の「日米交流ファシリテーター」/「日本語教育サポーター」が2年間の予定で現地に滞在し、地元の人たちと日常的に交わりながら日本理解・日本語教育促進のために様々な活動を展開しました。ファシリテーター/サポーターは、米国中西部・南部に進出した日本企業が現地で地域社会により深く溶け込めるように、一般向けの日本文化紹介から、日本企業への就職を希望する現地大学生向けのイベントまで、様々なニーズに応える形で特色のある事業を実施してきました。また、GEN-J招へい事業として、地元コミュニティを牽引する120名のアメリカ人と157名の日本語学習者とその引率教師を招へいしました。次世代を担う高校生のほか、企業や地方自治体の幹部や地方議員など、地元社会に大きな影響力を持つキーパーソンを中心に参加者を選定したことで、日本への訪問で得た知見を地元社会へ持ち帰ることにつながりました。訪問先も東京に限定せず、地方にも足を延ばし日本企業の生産現場訪問や、ビジネス

リーダーの方々と意見交換を行いました。帰国後も参加者たちが日本への関心を強く持ち続けていったことは私たちにとって大きな励みとなっています。

プロジェクトの最終年度には新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が発生し、対面での交流が大きく制限される状況になりましたが、ファシリテーター/サポーター達はオンライン上で日本文化や日本語の魅力を伝え続けました。オンラインだからこそ新たな出会いや可能性を感じる場面も少なくなかったと聞き、私たちも新しい文化交流の形を認識する次第です。

本プロジェクトを出発点として、草の根のレベルから日米両国の間により強い信頼関係がはぐくまれていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、日米両国で参加者を温かく迎え、支援していただいた関係者の皆様、並びに外務省、経団連、JETRO、訪問した各地の商工会議所および企業の皆様、米国ローラシアン協会等、関係機関のご協力、ご尽力に対して厚く感謝申し上げます。



国際交流基金理事長  
梅本 和義

## 「GEN-J事業」について

(英名: Grassroots Exchange Network - Japan 和名: グラスルーツからの日米関係強化)

米国では日本企業の進出や投資により多くの雇用が創出され、日米間の経済的な関係は強固なものとなっている一方、特に中西部および南部地域においては日本との交流機会が限定的であるため、草の根レベルでの日本への関心や理解がまだ十分とはいえない状況となっています。

こうした事態を踏まえ、2017年に「グラスルーツからの日米関係強化に関する政府タスクフォース」が首相官邸に設置され、米国の地方・州の特色に応じて、経済・社会・文化のあらゆる面における日米関係の強化を目的とした事業を、官民の幅広い関係組織が連携して実施することとなりました。

この方針に基づき、国際交流基金では、在米の日本企業や関係団体と協力しながら、対日理解の促進と日米両国の経済関係強化を目指し、日本との交流の機会を提供し、親日派・知日派の裾野を拡げるための新たな取り組みとして、派遣事業と招へい事業から成る「グラスルーツからの日米関係強化(GEN-J)」事業を実施いたしました。

派遣事業においては、米国の非営利団体ローラシアン協会の協力のもとで、中西部・南部地域9州の日米協会等の地域交流活動の拠点に、14名の日本人ボランティアを「日米交流ファシ

リテーター」「日本語教育サポーター」として2年間派遣しました。被派遣者たちは、現地の日本企業や日米協会・日本商工会、教育関係機関等の協力のもと、特に地元コミュニティーと日本企業の連携強化を意識しながら、日本文化・社会紹介事業、日本語教育事業などの活動を展開しました。

招へい事業としては、日本社会と日本企業に対する理解を深めるため、訪日経験のない地方議員や地方自治体・経済団体の関係者を中心に、日本文化体験や地方視察、企業訪問やビジネス関係者との意見交換等を含む訪日プログラムに、中西部・南部の16州から120名を招へいしました。日程の後半で必ずひとつの地方を訪問し、企業の生産現場の訪問や地元ビジネスリーダーの方々との意見交換を通じて、東京だけではわからない日本の多様性や地方の個性等多くの気づきが得られました。また、日本に高い関心を持つ高校生も招へいし、日米の交流が次世代にわたって長期的に維持されることを目指しました。

約2年間にわたり実施したGEN-J事業は、米国における日本企業と地域社会の連携強化や日本理解の深化を図り、より高いレベルで有機的に繋がりあう日米草の根交流の実現に貢献いたしました。

### 国際交流基金について

独立行政法人国際交流基金は、世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する機関として、1972年10月に特殊法人として設置され、2003年10月に外務省所管の独立行政法人として改組された組織です。現在、本部と京都支部、ふたつの附属機関(日本語国際センター、関西国際センター)、および海外24カ国に開設された25の海外拠点をベースに、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流分野で各種事業を実施しています。

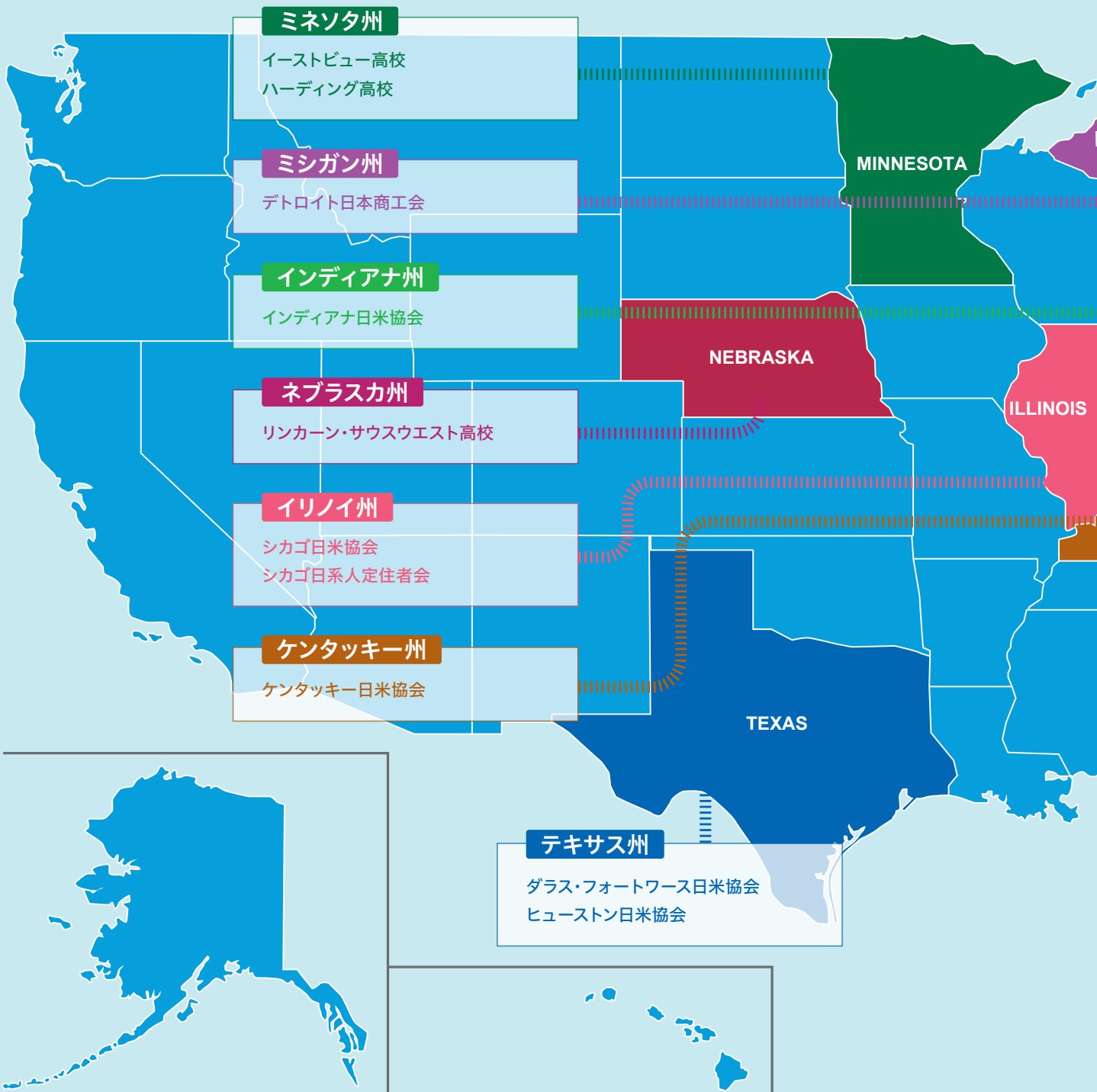
GEN-J事業として  
日米で行ったプログラムを  
ご紹介します

## プログラム紹介(米国)

ボランティア(日米交流ファシリテーター／日本語教育サポーター)を米国中西部・南部へ2年間派遣し、現地の人々が日本文化に触れる機会を作りました

2020年3月以降のコロナ禍により活動に大きな影響を受けましたが、日米交流ファシリテーターには積極的な姿勢と実行力で、デトロイト日本商工会とウイメンズクラブが行ってきた文化交流活動の幅を広げることに貢献いただきました。

デトロイト日本商工会



※日本語教育サポーター7名のうち、3名は米国若手日本語教員が業務を兼務

日本語教育サポーターを迎え入れられたことは本当に幸運なことで、我々組織や地域社会に本当に素晴らしい成果をもたらしてくれました。

彼女はシカゴ到着後、すぐに関係者にコンタクトをとり、GEN-J派遣事業の活動の鍵となる信頼関係の構築に努め即戦力として活躍してくれました。様々な日系企業と地元の高校、日系アメリカ人コミュニティとの交流はそんな彼女の熱意と努力から生まれたもので、地元高校生の日本への旅行の企画サポートや、日系企業のオフィス訪問の実現など、多岐にわたって活躍してくれました。

さらに、GEN-J派遣事業は我々シカゴ日系人定住者と日本語教育や日本クラブに力を入れている地元小学校や高校との繋がり強化、他のGEN-J派遣先機関である各地域の日米協会等との関係構築にも大きく貢献してくれました。

シカゴ日系人定住者会

インディアナ日米協会は、この度GEN-J派遣事業に参加出来たことを心より感謝しています。日米交流ファシリテーターを迎え入れることができ、とても嬉しく思います。インディアナ日米協会のネットワークは日米に拠点を置く会社、インディアナ州全域に渡る市長室、教育系団体そして個人によって構成されています。GEN-J派遣事業は文化やビジネス、教育等、我々のミッションに完全に合致するものでした。また、日米交流ファシリテーターはインディアナ日米協会のスタッフ、そして地域コミュニティの方々にとって大切なメンバーの一員となりました。特に、新型コロナウイルスが蔓延した困難な時期でも、彼女の強みである柔軟性と前向きな姿勢に我々は感銘を受けました。そんな彼女の姿は、新型コロナウイルスの知られざる脅威に対し、未知な出来事に適応し、新しいテクノロジーを学び、かつ人々を信じるといった「困難に立ち向かう」事を体現したかのようでした。

日米交流ファシリテーターの活動は、双方向活動を含むオンラインアクティビティ、教育関連のビデオ制作やZoomミーティングを通して、我々インディアナ日米協会の使命を果たしてくれました。この国際交流基金のGEN-J派遣事業を通して、私たちは大学の就職キャリアフェアでの「ランチJapan」や「美味しインディアナ」レストランビデオシリーズや栃木県との「よさこいダンスオンラインフェスティバル」などの重要な新しいプロジェクトを築き上げる事ができました。茶道、和菓子のワークショップなどの日本を体験できるワークショップを開催して下さった彼女のクリエイティブな才能は、私たちの文化センターの戦略的ビジョンを強化してくれました。私どもは改めてインディアナと日本へ貢献して下さったGEN-J派遣事業と日米交流ファシリテーターに感謝致します。

インディアナ日米協会



2018年からの2年間のGEN-J派遣事業での活動を通じて、国際交流基金、日米センター、ローラシアン協会のサポートのもと、ジョージアの草の根交流活動を広げ、日系企業と地域社会の繋がりを強化することができ、当協会の名前や存在は日系コミュニティのみならず、アトランタをはじめ、ジョージアで幅広く認知されるようになりました。GEN-J派遣事業は、日本語クラスの拡大や日本文化理解の促進、地域経済の活性化において私たちのニーズを遥かに超える成果をもたらしてくれたうえ、個人レベルでの日米交流にも大きく貢献してくれました。コロナ禍の厳しい状況の中、GEN-J派遣事業なくして私たちのこれまでの活動基盤の強化はなかったと思います。

GEN-J派遣事業は私たちにとって他にかえがたい活動であり、今後もこのようなプロジェクトの一員になれることを期待しています。

ジョージア日米協会

※いただいたコメントの一部を引用しています

2年間の活動を経て、シカゴは私にとって特別で大切な場所になりました。しかしながら、GEN-J派遣事業が終わっても、私のアウトリーチ活動は終わりません。日本に帰国した後も数回のプレゼンテーションを実施し、今後も依頼があればボランティアとしていつまでも活動しようと思っています。アウトリーチ活動は私のライフワークです。日本国内外で、日本人との交流を通して日本を理解しようとする方がいらっしゃると思います。その際に日本全般・日本文化・日本語について、各々の経験や知識を基に語ることが出来れば、草の根のアウトリーチ活動はもっと広がっていくはずです。

(派遣されたボランティア:シカゴ日米協会派遣)

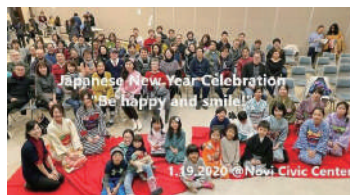
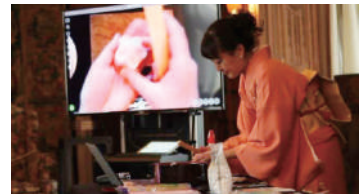


派遣前は文化交流と日系企業のサポートという、一見繋がっていないように見える二つの活動目的をどれだけ達成することが出来るか不安でしたが、活動していく中で、この二つは繋がっているものだと気づくことが出来ました。キャリアフェアで得た企業との人脈が文化交流イベントで活かされ、また文化イベントで出会った参加者の多くは日系企業で働いているため、結果として新たな繋がりが文化交流イベントから生まれることが何度もありました。文化交流のみ、もしくは日系企業サポートのみでは得られなかった沢山の繋がりを、GEN-J派遣事業を通じてインディアナ日米協会(JASI)に残すことが出来たと感じています。

(派遣されたボランティア:インディアナ日米協会派遣)

日米交流ファシリテーターとして活動した2年間は、異国の文化を知ることが大好きな私にとっては、大変充実した毎日でした。国際交流を体験する側でありながら、国際交流の場を作る側でもある。それは初めての挑戦の連続でした。うまくいかないこともたくさん経験しました。海外旅行や留学、国際交流イベントの開催すら難しい今の世の中ですが、今後は新しい国際交流の形を見つけ、それを形にしていけるような活動を続けたいと思います。

(派遣されたボランティア:ダラス/フォートワース日米協会派遣)

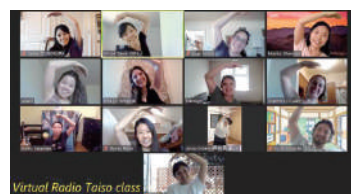
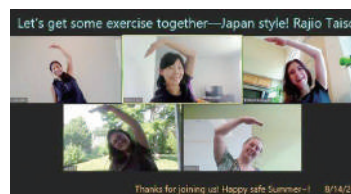


あっという間の2年間でした。感染症の影響で制限がある中、オンライン授業への移行や活動を全力でサポートして下さったスーパーバイザー、制限をむしろ楽しんでくれた参加者の皆様には感謝しかありません。誰にとっても大変な2020年、少しでもケンタッキーの人々に楽しさと学び、日本語を届けることができたのであれば、これ以上の喜びはありません。今後も、どのような形であれ、人と人との交流、繋がりを結ぶ仕事を続けていきたいです。

(派遣されたボランティア:ケンタッキー日米協会派遣)

日本と米国は近い国に思えますが、相互理解はまだまだというのが率直な感想です。特に近頃はメディアを通じて情報が簡単に手に入るものの、お互いの国のことをよく知っているとは言えません。私自身もテキサスやヒューストンのことは何も知らない状態で渡米し、住んでみて初めてアメリカを知ることができました。この経験から得たアメリカの文化を日本に持ち帰り、日本での米国文化への理解、日米間の関係の向上に貢献したいです。また引き続き、海外の方にもっと日本や日本文化に関心を持ってもらうような活動をしたいです。そして実際に訪れることが一番の相互理解に繋がると思うので、日本へ訪れてくれる人を増やしたいです。

(派遣されたボランティア:ヒューストン日米協会派遣)





日系企業だけでなく、米系企業にもアウトリーチを行いました。例えば Procter & Gamble Companyからは東京2020オリンピックのメインスポンサーであることから、これを機会にもっと日本支社の同僚およびビジネスパートナーとうまくコミュニケーションを取りたいということで依頼を受けました。日本のマナー、エチケットに加え、席次ルールなどのビジネスマナーについて紹介しました。年功序列、終身雇用等の日本独自の企業文化については、初めて知ることも多かったようで、質疑応答では盛んに意見交換がなされました。

(派遣されたボランティア:グレーター・シンシナティ日米協会派遣)

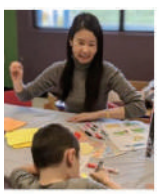
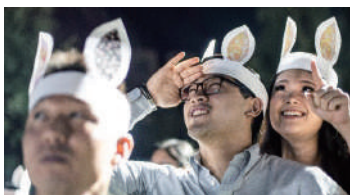


GEN-J派遣事業を通じて、イリノイ在住の多くの日系企業や組織、日本文化を広めるため活躍している講師の方々、日本語クラスの学校スタッフや先生方や生徒たち、そして現地の方々に出会うことができました。また、私自身がシカゴ日系人定住者の歴史について学ぶとともに、たくさんの方々のサポートのもと、多くのシカゴ現地の方々から日本文化と日本語に親しみを覚えていただき、草の根からの日米関係強化に取り組むことができたと思っています。

(派遣されたボランティア:シカゴ日系人定住者会派遣)

最初の半年は期待していた業務と求められる業務のギャップに苦しみました。現地企業で日本語を教える機会を通じて、「日本語を教えること」のやりがいを改めて感じ、現地の日本語クラスを見学するなど、日本語教育に関わる活動に取り組んでいきました。どんな経験も捉え方や今後の努力次第で、良いものに変えられると考え、「日本語を教えることで、誰かの生活を良くし、幸せにしたい」という目標に向けて、今後も日本語を教え続けたいと思います。

(派遣されたボランティア:ヒューストン日米協会派遣)



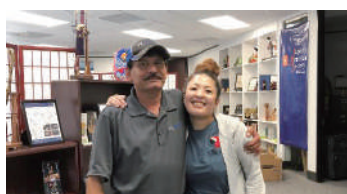
任期中は「盆踊りイベント」の企画・運営に特に力を入れていました。お祭りは、1日で終わってしまいますが、成功させるには数えきれない程の下準備と調整が必要です。その途中で、多くの気づきや交流が生まれ、自然と一つになっていく達成感を間近で感じられたのは、周りの方々の協力なしではあり得ませんでした。心より感謝いたします。

(派遣されたボランティア:デトロイト日本商工会派遣)

2年の活動を通じて、日本語、日本文化、日本社会を紹介でき、日本企業と地域社会の連携強化や日本理解の深化を行う草の根の交流が行えました。特に日本語教育を中心に活動しましたので、日本語に興味を持つ方や学習者増にも、少しは貢献できたと考えます。

この経験を活かし、1番は今後も日本語教育に続けて携っていきたくて考えています。そして、今後もお世話になった関係機関の方々との交流を続け、協力していけたらと考えています。

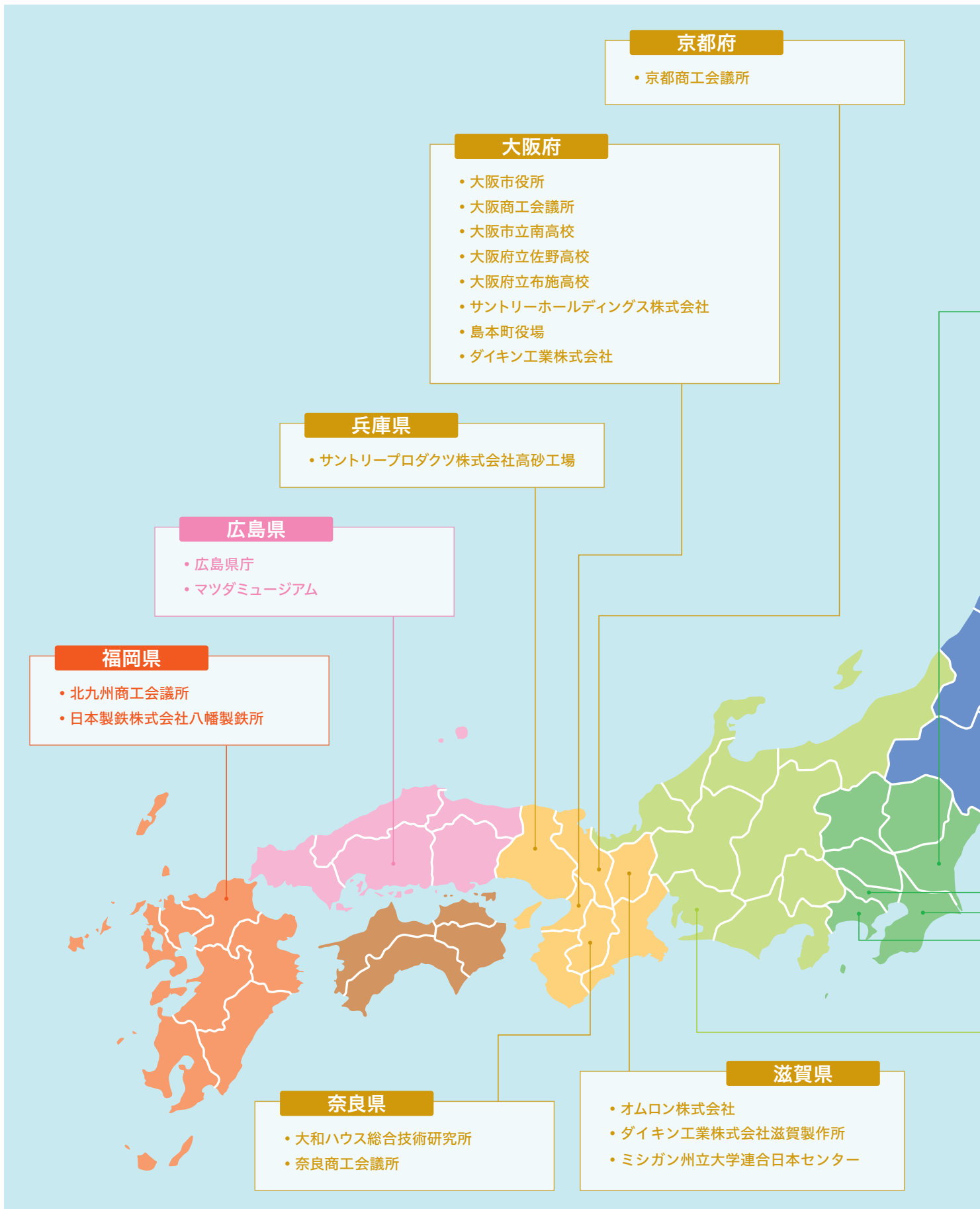
(派遣されたボランティア:ジョージア日米協会派遣)

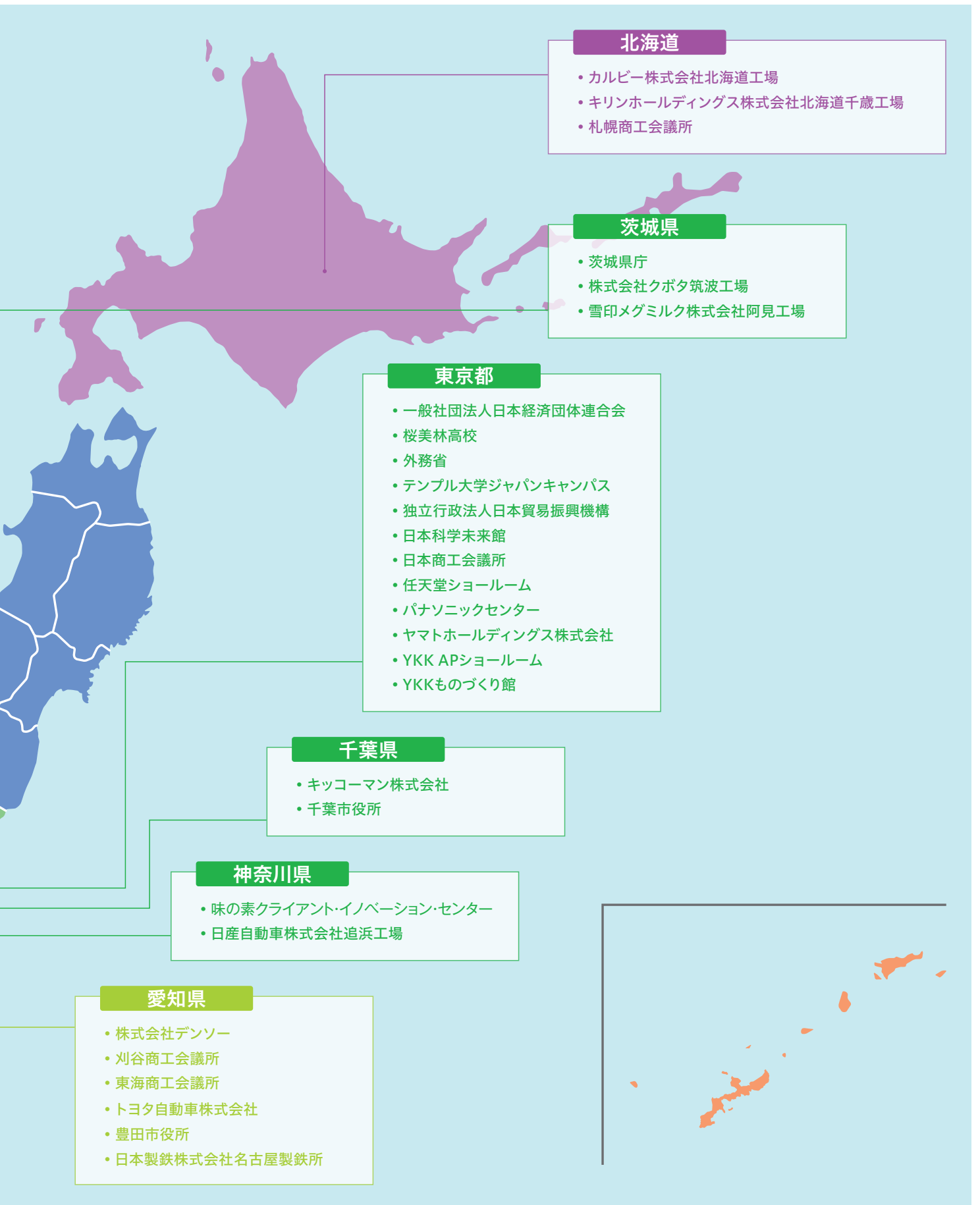


※いただいたコメントの一部を引用しています

## プログラム紹介(日本)

地元有力者、ビジネスリーダー、高校生を招へいし、米国中西部・南部に進出している日本企業の本社や工場を訪問する機会を提供しました





### 北海道

- カルビー株式会社北海道工場
- キリンホールディングス株式会社北海道千歳工場
- 札幌商工会議所

### 茨城県

- 茨城県庁
- 株式会社クボタ筑波工場
- 雪印メグミルク株式会社阿見工場

### 東京都

- 一般社団法人日本経済団体連合会
- 桜美林高校
- 外務省
- テンプル大学ジャパンキャンパス
- 独立行政法人日本貿易振興機構
- 日本科学未来館
- 日本商工会議所
- 任天堂ショールーム
- パナソニックセンター
- ヤマトホールディングス株式会社
- YKK APショールーム
- YKKものづくり館

### 千葉県

- キッコーマン株式会社
- 千葉市役所

### 神奈川県

- 味の素クライアント・イノベーション・センター
- 日産自動車株式会社追浜工場

### 愛知県

- 株式会社デンソー
- 刈谷商工会議所
- 東海商工会議所
- トヨタ自動車株式会社
- 豊田市役所
- 日本製鉄株式会社名古屋製鉄所



GEN-J招へい事業を通じ、日本の文化やビジネス習慣、行政の仕組みを深く理解できました。日本での滞在を通じて得た経験を、本国でのビジネスにも生かしたいと考えています。地元ミネソタと日本と経済的な結びつきだけでなく、友好関係もさらに深めていきたいと強く思います。

**(事業参加者：ミネソタ州政府担当者)**



私は小さいころから、世界に関心があり、言語を学ぶことに強い情熱を持っていました。特に、高校で日本語と出会ってからは、日本語学習と日本文化に夢中になりました。GEN-J招へい事業を通じて日本に行くことが決まった時は、「ついに私が勉強してきた日本語を実際に使うことができるんだ！」と興奮せずにはいられませんでした。そして、この旅行は私の人生にとって最も素晴らしい経験になりました。これからもぜひ日本の文化と繋がりたいと思っています。

**(事業参加者)**



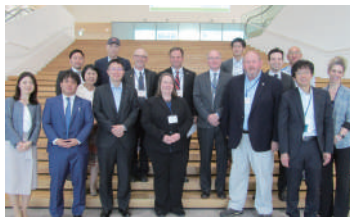
GEN-J招へい事業での訪問では日本のビジネスや文化についての自分の理解が大いに深まり、大変貴重な経験だったと強く思います。地元ウィスコンシンと日本の結びつきをより強固なものにするよう貢献していきたいです。

(事業参加者:ウィスコンシン州議会議員)



ビデオゲームが好きで、将来ソフトウェアエンジニアを目指している私にとっては、これらの業界で最前線にいる日本の文化やビジネスを理解することはとても大事なことだと思っていました。ですので、今回の旅行はその理解を深め、私の視野を大きく広げてくれる貴重な機会となりました。特に今回の旅行で訪ねた秋葉原では、最先端の日本文化に触れることができとても刺激的でした。これからも日本語を勉強して、将来は日本の企業と仕事ができればと思っています！

(事業参加者)



訪問先の企業の方々は知識が豊かかつ親切で、大変有意義な意見交換ができました。訪問先の一つのJETROには、地元ジョージア州への日本企業誘致を相談したいと考えています。今度は我々が日本の方を受け入れる文化交流プログラムを企画したいと思います。

(事業参加者:ジョージア州議会議員)



※いただいたコメントの一部を引用しています

## GEN-J事業 派遣・招へい実績

### ■米国へ派遣したボランティア：計14名

内容	人数
日米交流ファシリテーター	7名
日本語教育サポーター	7名

### ■米国派遣先機関：計13機関

州	団体名
イリノイ州	シカゴ日米協会 シカゴ日系人定住者会
インディアナ州	インディアナ日米協会
オハイオ州	グレーター・シンシナティ日米協会 中央オハイオ日米協会
ケンタッキー州	ケンタッキー日米協会
ジョージア州	ジョージア日米協会
テキサス州	ダラス・フォートワース日米協会 ヒューストン日米協会
ネブラスカ州	リンカーン・サウスウエスト 高校
ミシガン州	デトロイト日本商工会
ミネソタ州	イーストビュー高校 ハーディング高校

### ■日本への招へい人数：計277名

内容	人数
企業・地方自治体幹部、 地方政府議員など	120名
高校生を中心とした日本語学習者	157名

### ■招へい事業の実施に協力いただいた

#### 日本国内の関係機関

都道府県	企業・団体名
北海道	カルビー株式会社北海道工場 キリンホールディングス株式会社北海道千歳工場 札幌商工会議所
茨城県	茨城県庁 株式会社クボタ筑波工場 雪印メグミルク株式会社阿見工場
千葉県	キッコーマン株式会社 千葉市役所
東京都	一般社団法人日本経済団体連合会 桜美林高校 外務省 テンプル大学ジャパンキャンパス 独立行政法人日本貿易振興機構 日本科学未来館 日本商工会議所 任天堂ショールーム パナソニックセンター ヤマトホールディングス株式会社 YKK APショールーム YKKものづくり館
神奈川県	味の素クライアント・イノベーション・センター 日産自動車株式会社追浜工場
愛知県	株式会社デンソー 刈谷商工会議所 東海商工会議所 豊田市役所 トヨタ自動車株式会社 日本製鉄株式会社名古屋製鉄所
滋賀県	オムロン株式会社 ダイキン工業株式会社滋賀製作所 ミシガン州立大学連合日本センター
京都府	京都商工会議所
大阪府	大阪市役所 大阪商工会議所 大阪市立南高校 大阪府立佐野高校 大阪府立布施高校 サントリーホールディングス株式会社 島本町役場 ダイキン工業株式会社
兵庫県	サントリープロダクツ株式会社高砂工場
奈良県	大和ハウス総合技術研究所 奈良商工会議所
広島県	広島県庁 マツダミュージアム
福岡県	北九州商工会議所 日本製鉄株式会社八幡製鉄所



**JAPAN**FOUNDATION  國際交流基金